

平成 2 7 年度事業報告

1. 平成 2 7 年度 大学地域連携事業・・・・・・・・ 2頁
2. 平成 2 7 年度 学生支援事業・・・・・・・・ 5頁
3. 平成 2 7 年度 就職支援事業・・・・・・・・ 9頁
4. 平成 2 7 年度 単位互換事業・・・・・・・・17頁
5. 平成 2 7 年度 広報事業・・・・・・・・23頁
6. 平成 2 7 年度 本法人全体に関わる事業・・・24頁

(以上)

1. 平成27年度大学地域連携事業報告

平成28年3月31日

1. 担当

主担当 滋賀県立大学

副担当 滋賀医科大学、長浜バイオ大学、甲賀市

参画 びわこ学院大学、滋賀短期大学、放送大学

2. 委員会活動

○第1回（平成27年5月25日（月））

- ・昨年度の取り組みについて
- ・今年度事業の進め方について

○第2回（平成27年10月26日（月））

- ・大学地域交流フェスタの準備について

○第3回（平成27年11月9日（月））

- ・課題解決支援事業について
- ・大学地域交流フェスタの準備について

○第4回（平成27年12月4日（月））

- ・滋賀医科大学施設見学会
- ・大学地域交流フェスタの準備について

○第5回（平成28年2月18日（木））

- ・今年度事業の報告
- ・来年度の事業計画について

3. 大学地域連携課題解決支援事業について

○活動提案募集（平成27年5月8日～6月1日）

- ・「活動提案A（地域課題対応型）」10件、「活動提案B（自主活動型）」7件、合計17件の応募があった。

○第1次審査（書面）（平成27年6月3日～6月9日）

- ・委員会全メンバーによる。
- ・必然性、具体性、地域性、適切性、発展性の5項目について4段階評価。

○第2次審査会（平成27年6月17日）

- ・主担当、副担当、事務局の5名による。
- ・応募があった活動提案を全て採択（第1次審査の結果を踏まえ、点数によって減額）。

○採択結果通知（平成27年6月19日） 事業開始

■大学地域連携課題解決支援事業2015・採択提案一覧

番号	提案区分	提案者	自治体担当者	大学担当者	取組テーマ	採択額	決算額
1	A	草津市教育委員会 文化財保護課 課長 谷口智樹	草津市教育委員会 文化財保護課 参事 藤居朗	立命館大学理工学部 建築都市デザイン学科 教授 及川清昭 講師 青柳憲昌	市内に残る歴史的建造物について、今後の保護対策や活用のための資料を得ることを目的に実態調査をおこなう	100,000	100,000
2	A	草津市農業協同組合 代表 村田 勘一 担当:農産部 次長 青木良輔	草津市環境経済部 農林水産課 特産振興グループ 主任 湯浅圭太	立命館大学 共通教育推進機構 講師 宮下聖史、 サービスマーケティングセンター 主事 高橋あゆみ	学生が日常生活の中で特に見かける事が少ない琵琶湖側の農業従事者との交流事業	100,000	52,971
3	A	滋賀文教短期大学 国文学科 戸塚ゼミ 准教授 戸塚麻子	長浜市総合政策部 総合政策課 主事 山脇千浩	滋賀文教短期大学 国文学科 准教授 戸塚麻子	長浜市北部地域における地域資源の再発見と魅力発信	150,000	150,000
4	A	立命館大学経済学部 金井ゼミ (国内調査実習甲賀班) 客員教授 金井萬造	甲賀市教育委員会 歴史文化財課 参事 長峰透、 甲賀市産業経済部 観光企画推進室 主事 小嶋 毅、 甲賀市観光協会 事務局長 横川正巳	立命館大学経済学部 客員教授 金井萬造	忍者を核とした地域資源と魅力の発掘	100,000	100,000
5	A	滋賀県立大学 助教 永井拓生	甲賀市産業経済部 林業振興課 課長 山本泰彦	滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 助教 永井拓生、 環境政策・計画学科 准教授 村上一真、 教授 高橋卓也	持続可能な林業振興と健全な森林整備	100,000	100,000
6	A	大津市 市長 越直美 担当:産業観光部 農林水産課 主事 今井幹太	大津市産業観光部 農林水産課 主事 今井幹太	龍谷大学農学部 資源生物化学科 教授 佐藤茂	大津の特色を生かした地産地消推進モデルの構築	150,000	149,542
7	A	東近江市 市長 小椋正清 担当:市民環境部 交通政策課 課長補佐 石橋幸昭	東近江市 企画部企画課 主事 谷佑一郎	びわこ学院大学 短期大学部 ライフデザイン学科 谷口浩志	「ちょこっとバス」の利用率向上に向けた調査・研究と市民への利用促進PR	150,000	0
8	A	東近江市 市長 小椋正清 担当:産業振興部 農林水産課 藤井盛浩	東近江市企画部 企画課 主事 谷佑一郎	龍谷大学農学部 資源生物科学科 教授 大門弘幸	休耕田の有効活用のための園芸作物・畑作物栽培の可能性の検討	150,000	138,728
9	A	彦根市 市長 大久保貴 担当:市民環境部 生活環境課 主任 藤原康博	彦根市役所 市民環境部生活環境課 主任 藤原康博	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 教授 高橋卓也	市民を交えた彦根市独自の環境マネジメントシステム(EMS)の構築	100,000	100,000
10	A	サークルワークス 代表 松井敬樹	大津市産業観光部 観光振興課 徳永幸代	龍谷大学社会学部 コミュニケーション学科 李 相哲	びわ湖大津の魅力発信！ステキな動画製作事業	100,000	97,200
11	B	滋賀大学教育学部 岳野研究室 教授 岳野公人		滋賀大学学術国際課 研究支援係 副課長 安田豊	琵琶湖の流木を利用した食農育教材の開発	80,000	80,000
12	B	滋賀大学教育学部 准教授 石川俊之		滋賀大学学術国際課 研究支援係 副課長 安田豊	科学的知見と漁業者のローカル知の融合を旨とした琵琶湖実習科目の展開	100,000	100,000
13	B	立命館大学 サービスマーケティングセンター センター長 坂田謙司 担当:主事 高橋あゆみ	高島市企画調整課 主監 青谷守 高島市社会福祉協議会 事務局長 井岡仁志	立命館大学 共通教育推進機構 講師 宮下聖史、 サービスマーケティングセンター 主事 高橋あゆみ	高島市マキノ地域における集落活性化事業	100,000	61,030
14	B	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 学科長 小山内幸治 担当:准教授 江見和明 特任教授 清水たま子		滋賀短期大学 総務課長補佐 中村治重	「カミッシュ」づくりと啓蒙活動	70,000	70,000
15	B	龍谷大学政策学部 『政策実践・探究演習』 守山プロジェクト班 教授 只友景士		龍谷大学政策学部 教務課員 神野華奈子	龍谷大学政策学部『政策実践・探究演習』守山プロジェクト:話し合いがまちを変える！守山市民参加と協働による骨太の地域づくり参画プログラム	70,000	35,933
16	B	Entrance to Science 代表 原田大輔 (長浜バイオ大学バイオサイエンス学部コンピュータバイオサイエンス学科2年次生) 担当:副代表 木村葉菜		長浜バイオ大学 学生教育推進機構 学習・就業力支援担当 課長 杜下好恵	科学 (Science) を通じた地域交流	100,000	49,517
17	B	CELL部 部長 大畑創平 担当:小島達也		長浜バイオ大学 学生教育推進機構 学生担当課長 今村俊之	身近な科学のおもしろさを体験させる	80,000	80,000
						1,800,000	1,464,921

○「環びわ湖大学地域交流フェスタ 2015」の開催

「大学地域連携課題解決支援事業」＆「学生支援事業」活動報告会

- (1) テーマ 滋賀で学ぶこと、滋賀で働くこと
- (2) 日 時 平成 27 年 (2015 年) 12 月 19 日 (土) 13:00～17:30
- (3) 場 所 滋賀医科大学
- (4) 参加者 県内の大学関係者、学生、地域および自治体関係者など約 150 名
- (5) プログラム

①開会挨拶 堀池喜八郎・代表幹事 (滋賀医科大学副学長)

②学生支援事業の概要報告

③基調講演 埴田和史 滋賀医科大学准教授

「県民とともに滋賀の医療の担い手を育てる、滋賀医大の取り組み」

④活動報告会

第 1 会場【地域交流】 7 題

第 2 会場【調査研究】 7 題

第 3 会場【教育普及】 6 題

⑤学内見学会「メディカルミュージアム」 案内者：相見良成准教授

⑥活動奨励賞発表

【活動奨励賞・受賞者】 7 団体

団体名	取組テーマ・名称
滋賀大学教育学部 石川ゼミ	「科学的知見と漁業者のローカル知の融合を目指した琵琶湖実習科目の展開」
龍谷大学政策学部『政策実践・探究演習』守山プロジェクト班	「龍谷大学政策学部『政策実践・探究演習』守山プロジェクト：話し合いがまちを変える！守山市市民参加と協働による骨太の地域づくり参画プログラム」
草津市教育委員会文化財保護課 立命館大学理工学部建築都市デザイン学科	「市内に残る歴史的建造物について、今後の保護対策や活用のための資料を得ることを目的に実態調査をおこなう」
大津市産業観光部農林水産課 龍谷大学農学部資源生物科学科	「大津の特色を生かした地産地消推進モデルの構築」
立命館大学経済学部 金井ゼミ 甲賀市教育委員会歴史文化財課、甲賀市産業経済部観光企画推進室、甲賀市観光協会	「忍者を核とした地域資源と魅力の発掘」
長浜バイオ大学 CELL 部	「身近な科学のおもしろさを体験させる」
サークルワークス 龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科	「びわ湖大津の魅力発信！ステキな動画製作事業」

⑦閉会

※詳細は別添報告書を参照

2. 平成27年度学生支援事業報告

平成28年3月31日

1. 担当

主担当 立命館大学
副担当 滋賀大学、成安造形大学
参画 びわこ成蹊スポーツ大学、滋賀文教短期大学、放送大学

2. 平成27年度学生支援事業について

平成27年度の学生支援事業は、滋賀県の13大学から選出された学生スタッフと教職員が協力して以下の内容で事業を進め、「滋賀県企画調整課との連携企画」、「滋賀県魅力発信ポスター作成企画」の2つの企画を実施した。

(1) コンセプト

学生の力を活かした地域づくりと滋賀の魅力の発掘、発信

(2) 目的

- ①地域の人々と交流を通して地域を理解する。
- ②ボランティア活動を通じて社会について学ぶ。
- ③学生が大学の垣根を越えて交流・学習する。
- ④琵琶湖だけではない滋賀の奥深い魅力を発信する。
- ⑤事業の取り組み、成果を幅広い層に発信する。
- ⑥プロジェクトでの取り組みを通じて、参加学生の学びと成長に寄与する。

(3) 体制

平成26年度に引き続き、地域によって3つのチーム（チーム湖西、チーム湖南、チーム湖東）を編成し、原則チーム単位での活動を行い、12大学38名（放送大学は参加者無し）の学生と教職員で活動を行った。

(4) 滋賀県企画調整課との連携企画

1) 活動概要

以下のテーマについて、他大学の学生と協力しながら提案文書を作成し、「環びわ湖大学地域交流フェスタ2015」で発表を行った。

- ・学生が滋賀の幅広い魅力に気付き、帰属意識を高める仕組みづくり【湖西】
- ・学生の視点を活かした滋賀の魅力発見と県内外への情報発信案の策定【湖南】
- ・学生が卒業後も滋賀県に住み続けたいと思ってもらうためのアイデア作成【湖東】

2) 活動内容

① 滋賀の観光と暮らしの魅力発見ワークショップ

日時：2015年7月19日（日）13:00～16:00

場所：環びわ湖大学・地域コンソーシアム

参加者：29名（学生20名、教職員7名、滋賀県企画調整課職員2名）

② チーム別会議の実施

各チームとも 12 月開催の「環びわ湖大学地域交流フェスタ 2015」に向けて、10 月～12 月の約 3 ヶ月間、隔週の頻度で会議を行い、発表の準備を進めた。

③ 環びわ湖大学地域交流フェスタ 2015 での報告

日時：2015 年 12 月 19 日（土）13：00～17：30

場所：滋賀医科大学

参加者：34 名（学生 25 名、教職員 9 名）

(5) 滋賀県魅力発信ポスター作成企画

① 各地域行政機関による学習会の開催

コンソーシアム事務局長より、湖西、湖南、湖東それぞれの地域の観光関係の行政機関を紹介いただき、「ポスター作成時のポイント」、「各地域のお薦めスポット」を学ぶ学習会を開催した。

※ 湖西：大津市観光振興課

湖南：草津市商工観光労政課

湖東：彦根市観光企画課

② チーム別会議の実施

各チームとも 11 月実施の「デザイン会社へのプレゼンテーション」に向けて、8 月～10 月の約 3 ヶ月間、月 1 回～2 回の頻度で会議を行い、発表の準備を進めた。また、必要に応じてポスター作成に関わる施設への訪問も行った。

③ デザイン会社へのプレゼンテーション

ポスターの編集に関わるデザイン会社に対し、各チームのコンセプト、レイアウト案を発表し、意見交換を行った。各チームの原案をもとにデザイン会社で校正を行う流れで制作を進めていった。

④ ポスターの校正作業

各チームとデザイン会社で意見交換を行い、校正を進めた。

⑤ ポスターの掲示・配付

「環びわ湖大学地域交流フェスタ 2015」で、校正段階（未完成）のポスターを掲示した。完成した 3 チームのポスターは、各大学への郵送および滋賀県庁、大津市、草津市、彦根市の行政に配布依頼を行う。

(6) 予算執行状況

① 滋賀県企画調整課との連携企画

予算額：200,000 円、執行額：86,160 円、残額：113,840 円

② 滋賀県魅力発信ポスター作成企画

予算額：800,000 円、執行額：448,638 円、残額：351,362 円

2. 学生支援事業全体総括

(1) 到達点

① 学生支援事業の組織体制について

本事業は 13 大学の学生が 4 名前後、それを支援する教職員が各大学から原則 1 名で構成している。事業の主役は学生であり、参加学生が大学の垣根を越えて協力し合いながら、主体的に活動を行っており、教職員は主担当大学、副担当大学が中心となって必要に応じた支援を行っている。会議は原則コンソーシアム事務局内の会議室で、月に 1 ～2 回程度活動の進捗確認と次回までにやるべき内容の意見交換といった議題を中心に開催されている。

これまでは 13 大学の学生が一同に集まることの負担が大きく、会議の参加人数が集まりにくい現状や特定の大学への負担が大きくなる傾向があったが、昨年度に引き続き、大学の所在地に応じてチームを 3 つに分けて活動を行った。チーム別の会議は各チームのいずれかの大学で行うことを原則とし、一人ひとりが参加しやすい環境を作ることで、活動の活性化や学生の当事者意識、責任感の向上を図った。その結果、チーム内での学生同士の連帯感も高まり、積極的に活動に取り組む学生が増えたといえる。

一方で、平成 27 年度は全体で集まる機会が少なかったため、チームの垣根をこえた交流が例年より進まなかった点や参加する学生の多くが正課や他の課外活動等にも積極的に取り組んでいるため、学生支援事業への関わり方にも差が出ており、特定の学生層への負担が大きくなっている点が課題として挙げられる。

② 学生支援事業の目的達成度について

平成 27 年度の地域交流フェスタでの成果報告については、例年とは異なり、大学地域連携事業の分科会に各チームを含めてもらう形式で行った。その結果、より多くの参加者に本事業の取り組みを知ってもらう機会を得た。参加者アンケートの中にも「学生視点でわかりやすく同感しやすかった」、「これからの滋賀県をどのように PR していくのか、学生から発信していくには…」など、県外から通学する学生の滋賀県への思いが良く伝わった」や「取組テーマ自体がとても関心あり、また提案内容がとてもすばらしいと思った」といった感想が見られた。

また、2 月 19 日（金）に開催した担当者会議に参加した学生の提出したワークシートの中では、「活動を通じて滋賀県に対する考えは変化しましたか」という問いに対し、「今まで感じていた滋賀への愛着がより深まった」、「滋賀の良いところ、悪いところを含め、これだけ滋賀県のことを意識したことがこれまでなかったので、良い機会となった」といった回答が多く見られた。さらに、「今後の大学生活で、滋賀県をより良くしていくために、何か自分にできることはありますか」という問いに対し、「下宿の友人が多いので、今回得た知識をより広めていきたい」、「滋賀県で就職することも選択肢の一つになった」といった回答が見られた。

これらのことから、事業目的の④から⑥の達成をはじめ、一定水準の成果を上げることができたといえる。

(2) 今後の課題

① 各大学での参加学生の選出方法の見直し

毎年特定の学生団体からの選出をお願いしている大学が多いが、学内公募の実施等、幅広い学生層に対して参加の機会を提供することが理想的である。ただし、募集を行う場合は選考基準などの検討が必要になり、各大学の職員への負担増加が懸念されるため、慎重な議論が必要である。

② 学生の主体性・継続性の強化

学生同士による継承性・主体性の強化を図るためには、1回生や2回生といった低回生を中心に学生を選出することが必要である。

③ 地域や行政との連携強化

学生支援事業の活動内容を議論する際、地域や行政が抱える問題を共有し、課題解決に向けた取り組みを地域や行政と連携しながら活動していくことで、従来の目的達成に加えて、滋賀県の活性化や学生の成長への貢献度が増すと考えられる。学生の本分は正課であることを念頭に置き、参加学生への負担が過度にならないよう、また参加学生が意義を感じられる内容であることを考慮しながら、地域や行政との連携を強化できる体制を検討していく必要がある。

④ 学生同士の交流機会の担保

事業に参加した学生同士の交流を強化し、学生自身が楽しみながら活動を行えるよう、事業の進め方を留意する。事業に参加した学生自身が心から楽しんで活動することで、滋賀県に対する愛着度が高まり、今後自然と滋賀県の魅力発信を担う存在になることが期待できる。

⑤ 学生支援事業のあり方を見直し

この間の取り組みは地域貢献活動が中心となっているため、大学地域連携事業との統合といった選択肢を踏まえ、より組織として発展していくことができる体制を検討していく必要がある。

以上

3. 平成27年度就職支援事業報告

平成28年3月31日

平成27(2015)年度の就職支援事業は、学生の就職支援に直結する合同企業説明会を中心に、前年度まで実施してきた事業内容を踏襲し、行政機関、経済団体と連携して学生のマッチングに繋がる内容として実施した。行政機関、経済団体との連携に努め、加盟大学の学生や県内企業にとって、より有効的な事業となるような取り組みを行った。

1. 担当

主担当 龍谷大学
副担当 立命館大学
参画 聖泉大学、びわこ学院大学、滋賀短期大学、長浜バイオ大学、びわこ成蹊スポーツ大学

2. 平成27(2015)年度 事業計画

1) 合同企業説明会

滋賀県内の優良企業・事業所を広く学生に認知してもらい、より多くのマッチングを実現するために「合同企業説明会」を実施した。実施にあたっては、学生にとって効果的なものを目指し、滋賀県（労働局）、大津市、長浜市、甲賀市、各経済団体等と連携をとりながら、県・市・経済団体等が開催する合同企業説明会に共催、協力の形で取り組んでいる。

なお、経団連の採用選考に関する指針(2014年9月16日改定)において、2016年3月卒業予定者から、企業の広報活動開始を3月1日以降、選考活動開始を8月1日以降と、就職活動時期が大幅に変更することとなった。しかしながら、4月から実質的な選考活動がスタートするなど、例年と変わらないスケジュールで採用活動を進める企業もあった。この状況を踏まえ、イベントの開催時期等については各地域の行政機関等と調整して開催してきた。

実施した合同企業説明会は以下のとおり。

① 湖北会場（長浜市）【完了】

- ・担当校：長浜バイオ大学
- ・開催日：平成27(2015)年11月6日（金）
- ・開催場所：長浜バイオ大学体育館
- ・主催：長浜市、米原市（湖北就活ナビ実行委員会）
- ・共催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム、ハローワーク長浜、湖北地域雇用対策協議会
- ・参加企業数：53社
- ・参加学生数：95名（新卒：71名、既卒：24名）

② 湖北会場（長浜市）【完了】

「2015 滋賀学生 就職フェア」

- ・担当校：長浜バイオ大学
- ・開催日：平成27(2015)年9月3日（木）
- ・開催場所：北ビワコホテルグラツィエ
- ・主催：滋賀労働局、ハローワーク、滋賀県、滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会、おうみ若者未来サポートセンター

- ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：59社
- ・参加学生数：123名（新卒：107名、既卒：16名）

③ 湖東会場（近江八幡市）【完了】

- 「東近江・近江八幡 就職フェア」
- ・担当校：聖泉大学
- ・開催日：平成27（2015）年8月6日（木）
- ・開催場所：ホテルニューオウミ
- ・主催：ハローワーク東近江、東近江地域雇用対策協議会、八日市商工会議所、近江八幡商工会議所、東近江商工会
- ・協力：滋賀労働局、滋賀新卒応援ハローワーク、ヤングジョブセンター滋賀、環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：36社
- ・参加学生数：102名（新卒：78名、既卒：24名）

④ 湖東会場（甲賀市）【完了】

- 「甲賀 JOB フェア 合同就職面接会」
- ・担当校：びわこ学院大学
- ・開催日：平成27（2015）年8月4日（火）
- ・開催場所：碧水ホール
- ・主催：甲賀市
- ・共催：ハローワーク甲賀
- ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：31社
- ・参加学生数：124名

⑤ 湖南会場（大津市）【完了】

- ・担当校：滋賀短期大学、龍谷大学
- ・開催日：平成27（2015）年9月1日（火）
- ・開催場所：びわ湖ホテル
- ・主催：大津市
- ・共催：ハローワーク大津、環びわ湖大学・地域コンソーシアム、滋賀県中小企業団体中央会
- ・協力：大津市商工会議所、大津北商工会、瀬田商工会、ヤングジョブセンター滋賀、滋賀新卒応援ハローワーク
- ・参加企業数：50社
- ・参加学生数：69名

⑥ 湖南会場（大津市）【完了】

- ・担当校：龍谷大学
- ・開催日：平成27（2015）年8月26日（水）
- ・開催場所：大津プリンスホテル
- ・主催：滋賀労働局、ハローワーク、滋賀県、滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業

団体中央会、おうみ若者未来サポートセンター

- ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：102社
- ・参加学生数246名（新卒：201名、既卒45名）

⑦ 湖南会場（草津市）【完了】

- ・担当校：立命館大学
- ・開催日：平成28（2016）年2月15日（月）
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・主催：滋賀労働局、ハローワーク、滋賀県、滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会、おうみ若者未来サポートセンター
- ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：57社
- ・参加学生数108名（新卒：36名、既卒72名）

⑧ 留学生対象（草津市）【完了】

- ・担当校：立命館大学
- ・開催日：平成27（2015）年12月2日（水）
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・主催：滋賀経済産業協会
- ・共催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：12社
- ・参加留学生数：9名

⑨ リクルーターフェス（草津市）【完了】

- ・担当校：龍谷大学
- ・開催日：平成27（2015）年6月29日（月）
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・主催：滋賀県、滋賀県中小企業団体中央会
- ・共催：滋賀労働局、ハローワーク
- ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：47社
- ・参加学生数：119名（新卒：79名、既卒40名）

⑩ 東近江市面接会【完了】

- ・担当校：びわこ学院大学
- ・開催日：平成27（2015）年10月20日（火）
- ・開催場所：東近江市役所
- ・主催：東近江市就労対策協議会
- ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：37社
- ・参加学生数：65名（新卒：48名、既卒17名）

⑪ 湖東会場（東近江市）【完了】

- ・担当校：びわこ学院大学
- ・開催日：平成 28（2016）年 2 月 26 日（金）
- ・開催場所：ショッピングプラザアピア 4 階アピアホール研修室
- ・主催：東近江市就労対策協議会
- ・協力：環びわ湖大学・大学地域コンソーシアム、おうみ若者未来サポートセンター
- ・参加企業数：36 社
- ・参加学生数：50 名（新卒：17 名、既卒 33 名）

⑫ 湖東会場（彦根市）【完了】

- ・担当校：びわこ学院大学
- ・開催日：平成 28（2016）年 3 月 10 日（木）
- ・開催場所：マリアージュ彦根
- ・主催：彦根地区雇用対策協議会、彦根公共職業安定所
- ・協力：彦根商工会議所、滋賀新卒応援ハローワーク、環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：45 社
- ・参加学生数：182 名

⑬ 湖北会場（米原市）【完了】

- ・担当校：龍谷大学
- ・日時：平成 28（2016）年 3 月 17 日（木）
- ・開催場所：文化産業交流会館
- ・主催：滋賀県、滋賀県中小企業団体中央会
- ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：52 社
- ・参加学生数：176 名（新卒：168 名、既卒 8 名）

⑭ 湖南会場（草津市）【完了】

- ・担当校：龍谷大学
- ・日時：平成 28（2016）年 3 月 24 日（木）
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・主催：滋賀県、滋賀県中小企業団体中央会
- ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・参加企業数：52 社
- ・参加学生数：336 名（新卒：311 名、既卒：25 名）

2) 滋賀県企業人事担当者と大学就職・進路担当者との情報交換会

年々変化している昨今の就職環境を踏まえ、滋賀県内の経済 2 団体（滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会）と連携し、企業の人事担当者と大学の就職・進路担当者が交流・意見交換を行い、現状を捕まえた学生の就職支援につなげることを目的としている。

実施にあたっては、加盟 13 大学の就職・進路担当者と経済団体加盟企業の人事担当者が名刺交換、意見・情報交換を行い、情報を共有し就職支援に繋げた。

実施内容は以下のとおり。

◎担当校：(主担当校) 龍谷大学、(副担当校) 立命館大学

① 滋賀経済産業協会 (第1回目：理工系4大学 (滋賀県立大学、龍谷大学、立命館大学、長浜バイオ大学) 【完了】

- ・開催日：平成 27 (2015) 年 9 月 24 日 (木)
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・参加企業数：31社 (34名)
- ・参加大学数：4大学 (10名)

※滋賀県内理工系4大学と滋賀経済産業協会加盟企業人事担当者との懇談会
今年度は、大学側からの参加者として、事務職員だけでなく就職担当教員も参加することで、就活スケジュール変更にもなう学業への影響など懇談内容を深めることができた。

② 滋賀経済産業協会 【完了】

- ・開催日：平成 28 (2016) 年 3 月 2 日 (水)
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・参加企業数：33社 (38名)
- ・参加大学数：11大学 (14名)

(滋賀大学、滋賀県立大学、龍谷大学、立命館大学、成安造形大学、聖泉大学、長浜バイオ大学、びわこ成蹊スポーツ大学、びわこ学院大学、滋賀文教短期大学、滋賀短期大学)

※滋賀県内上記11大学と滋賀経済産業協会加盟企業人事担当者との懇談会
9月開催と同様、今年度は大学側からの参加者として、事務職員だけでなく就職担当教員も参加することで、就活スケジュール変更にもなう学業への影響など懇談内容を深めることができた。

3) 大学就職・進路担当者間の情報交換会・研修会 【完了】

就職環境における学生のニーズ、企業のニーズが多様化している昨今では、大学間における情報交換は貴重な支援策のひとつとなっている。また、2016年3月卒業予定者から就職活動時期が変更になったことに伴い、各大学の学生就職支援策は大幅な見直しを迫られた。このことから、加盟大学の就職担当者間の情報交換の重要性はさらに高まった。

本事業では加盟大学の就職・進路担当者が一堂に集まり、外部から講師を招き、話題提供に基づき意見交換を行った。このことにより、新たな知識の蓄積、他大学における先駆的な支援施策等を知り、多様化する学生への就職支援に役立てるものとした。

実施内容は、以下のとおり。

◎担当校：(主担当校) びわこ学院大学、(副担当校) 滋賀短期大学

- ・開催日時：平成 27 (2015) 年 9 月 11 日 (金) 13:30～17:00
- ・開催場所：環びわ湖大学・地域コンソーシアム事務局内セミナー室 (日本生命大津ビル4階)
- ・内 容：第1部 研修会 13:30～15:00
講題：「発達障害学生の修学と進路支援を考える」
講師：びわこ学院大学 教育福祉学部 黒田 吉孝 教授
第2部 研修会 15:15～15:45

講題：「大学と県との連携によるライフ&キャリア教育について」

講師：滋賀県商工観光労働部女性活躍推進課 主幹 山田 裕子 様 他3名

第3部 情報交換会 15:45～17:00

・参加大学：滋賀医科大学以外の加盟11大学16名

4) 学生（保護者含む）を対象とした就職活動に活かす企業訪問会

平成27(2015)年度は、滋賀県中小企業団体中央会と協力し企業訪問会を実施した。この事業を通じて、様々な地元優良企業を知ることにより、企業の選択肢を広げるとともに、更に企業訪問後、OB・OGとの交流を通じて「就職することとは」「働くこととは」どういうことかを考える場とし、以降の学生生活、就職活動に活かせる事業とした。さらに、滋賀県中小企業団体中央会と協議の上、企業見学会に限定せず、就職年次生も含め就職準備に関わる事業を実施した。

実施内容は、以下のとおり。

◎担当校：長浜バイオ大学、聖泉大学

① 企業見学バスツアー《文・理系3年生以下、短大1年生対象》【完了】

- ・主催：甲賀市、滋賀県中小企業団体中央会
- ・開催日：平成27(2015)年11月16日(月)・11月19日(木)・12月3日(木)
- ・訪問企業：11月16日 (株)日立建機ティアラ、(株)センチュリー
11月19日 (株)滋賀松風、(株)コーガアイソトープ
12月3日 (株)八代製作所、(株)ニューリー・土山
- ・定員：各20名(先着順)
- ・参加学生数：11月16日：3名、11月19日：2名、12月3日：4名

② 企業見学バスツアー《大学生、短大生、専門学校生及び卒業後概ね3年以内の方》

- ・主催：滋賀県、滋賀県中小企業団体中央会 【完了】
- ・開催日：平成27(2015)年11月25日(水)
- ・訪問企業：びわ湖放送(株)、オプテックス(株)
- ・集合場所：大阪駅(9:30)、大津駅(11:00)
- ・定員：30名(先着順)
- ・参加者：学生29名(内訳：関西大学10名、龍谷大学7名、京都産業大学6名、大阪大学2名、以下各校1名、同志社大学、関西学院大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学)教職員3名

③ 保護者向け就活セミナー【完了】

- ・開催日：平成27(2015)年11月7日(土)10:00～12:00
- ・開催場所：大津市役所 新館
- ・対象者：大学(院)、短大、専門学校に在学する保護者及び卒業後概ね3年以内の方の保護者
- ・内 容：第1部 就活サポートセミナー
 - ・講演内容：現在の雇用情勢、就職活動の状況、中堅・中小企業で働くことのメリット、就職活動中の子どもへの関わり方
 - ・講師：(株)HONKI 久保田 暁 氏第2部 保護者たちの座談会
 - ・コーディネーター：(株)HONKI 久保田 暁 氏第3部 市内の中堅・中小企業からの講演

- ・講演内容：地元企業としての役割について、中堅・中小企業の魅力を発信、いまの若者に求めること
- ・講師：(株)井之商 代表取締役 井上 昇 氏
- ・定員：なし
- ・参加保護者数：17名
- ・主催：大津市
- ・共催：滋賀県中小企業団体中央会
- ・協力：環びわ湖大学・地域コンソーシアム

④ 企業見学バスツアー《大学生、短大生、専門学校生及び卒業後概ね3年以内の方》

- ・主催：滋賀県、滋賀県中小企業団体中央会 **【完了】**
- ・共催：U I J ターン人材拠点（名古屋）、N P O 法人G－n e t
- ・開催時期：平成 28（2016）年 2 月 19 日（金）
- ・訪問企業：甲賀高分子(株)、富士電波工業(株)滋賀工場
- ・集合場所：名古屋駅（9:30）、南草津駅（12:30）
- ・定 員：30名（先着順）
- ・参加者：学生44名（内訳：龍谷大学8名、名古屋学院大学6名、名城大学5名、名古屋外国語大学4名、愛知大学3名、以下各校1～2名、京都橘大学、愛知淑徳大学、滋賀県立大学、大谷大学、同志社大学、金城学院大学、岐阜工業大学、東海大学、中部大学、中京大学、岐阜大学、愛知みずほ大学、京都文教大学）教職員3名

⑤ 企業研究セミナー《大学3年生以下、短大1年生対象》**【完了】**

- ・主催：滋賀県
- ・共催：滋賀県中小企業団体中央会、環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・開催日：平成 28（2016）年 2 月 23 日（火）
- ・開催場所：環びわ湖大学・地域コンソーシアム 研修室
- ・参加企業：(社)近畿健康管理センター、(株)叶匠壽庵、(株)京進、(株)日吉、新江州(株)
- ・参加企業数：5社
- ・参加学生数：16名

5) 滋賀県との共催事業

平成 25(2013)年度より滋賀県男女共同参画課からの共催要請を受け、共催事業を実施してきたが、今年度は都合により取りやめとなった。

- ・平成 25(2013)年度 「ワーク・ライフ・バランスを考えた働き方」講演会
- ・平成 26(2014)年度 「仕事も生活も充実！未来のわたしの体験発表」事業

引き続き滋賀県商工観光労働部女性活躍推進課（男女共同参画課から課名変更）と連携して検討していく予定である。

◎担当校：龍谷大学

6) 企業採用経験者による模擬面接会 **【完了】**

企業の厳選採用が続く中、昨年度に引き続き、新卒者対象者への就職支援策として滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会（主催）に協力いただき、加盟大学を対象に企業採用経験者による模擬面接会を開催した。

- ・担当校：（主担当校）龍谷大学
- ・主 催：滋賀経済産業協会
- ・開催時期：平成 27（2015）年 4 月～7 月
- ・開催場所：環びわ湖大学・地域コンソーシアムの加盟大学内
龍谷大学実績 7 月 27 日（月） 龍谷大学瀬田学舎 参加学生 9 名
滋賀大学、滋賀短期大学、びわこ学院大学 実施済み

以 上

4. 平成27年度単位互換事業報告

平成28年3月31日

1. 担当

主担当 滋賀大学
副担当 龍谷大学
参画 全大学

2. 取り組みの経過について

2014年11月13日に環びわ事務局会議室に於いて単位互換事業委員会及び教務担当者会議合同会議（以下「合同会議」という。）を開催し、2015年度の単位互換事業の進め方（「ガイドライン」）について協議・決定し、2015年度の事業を開始した。

2015年1月から、各大学からの提供科目の集約、シラバス原稿の集約を行い、4月1日に環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度について（2015年度）をHPに掲載した。また、募集チラシ、ポスターを作成し、各大学に配布した。4月上旬から、各大学で募集ガイダンスと出願受付を行い、4月末に科目提供大学で受講者を決定し、各大学で単位互換科目の授業が行われた。

6月24日に同事務局会議室に於いて合同会議を開催し、2015年度の単位互換事業の進捗状況の報告を行った。また、事務局から、2016年度以降の事業については、改革具体化プロジェクトにおいて抜本的な見直しが行われること、及びその結果において成安造形大学の学生にパンフレット等の作成を依頼するかを決定することの説明があった。

11月9日に同事務局会議室に於いて合同会議を開催し、2015年度後期試験時間割、成績処理日程等について確認を行った。また、第3回幹事会（9月18日開催）における当事業の継続決定を受け、2016年度の開講に向けて12大学がそれぞれ集中講義科目の提供の可能性や提供科目数の確保等を検討し、2016年1月27日期限で提供科目の報告・集約を行うことが確認された。

2016年2月には持ち回り審議を行い、2016年以降の幹事校について、主担当校に龍谷大学、副担当校に滋賀医科大学に依頼することが決定した。

3. 単位互換事業の内容について

(1) 提供科目

2015年度の提供科目数は77科目（同一科目を複数の曜日時限に開講する場合に、それぞれを1科目として数えたもの）で、2014年度と比べて12科目増加した。集中講義は6科目で前年度より1科目減少し、滋賀らしい科目は11科目で前年度から2科目減少した。

なお、実質的な科目数（学生が選択できる科目数）は、2015年度は77科目、2014年度は64科目であり、13科目増加である。

【別紙（1） 2015年度 各大学提供科目一覧 参照】

(2) 受講科目及び受講者数

提供科目のうち、他大学生が出願し受講が許可された科目数は 40 科目であり、昨年の最終時点より 9 科目増加した。受講率（＝受講科目数÷提供科目数）は 52% で、昨年度（48%）からは少し増加となった。また提供科目に対し受講者数が 0 名となった大学が 2 校で昨年度（4 校）より 2 校減少した。

2015 年度の受講者数は 126 件（実数 87 名）であり、昨年度からは 12 件（実数では 9 名）増加した。また本年の出願数は 129 件であり、出願ベースでも昨年度に比べ 12 件増加している。選考の結果 2 件が受入不可となり、許可済の 1 件がやむを得ない事情により受講申請を取りやめた。

本年度も集中講義の人気は高く、集中講義 5 科目で 38 件の受講者数となり、特に「滋賀論」（前期集中）は 18 名の受講者を集めた。

なお、5 月 26 日（火）から 6 月 8 日（月）の間に追加募集を行ったが応募者はなかった。また、8 月 24 日（月）から 9 月 4 日（金）の間に再追加募集を実施した結果、3 件（実数 3 名）の出願があり、受講者数は 126 件となった。

【別紙（2） 提供科目数・受講科目数・受講率（2011 年度～2015 年度） 参照】

【別紙（3） 2015 年度 授業科目別受講者数一覧 参照】

【別紙（4） 2015 年度 各大学受講者数 参照】

(3) 大学別の送出件数・受入件数

大学別に「送出件数」「受入件数」を見ると、多くの大学において「送出件数」が低迷している。一方「受入件数」は、多少の差異があるものの分散化傾向にある。短期大学は、2 年間で卒業する履修カリキュラムの制約から、出願が 0 件もしくは数件の状況が続いている。

年度別に見ると「送出」は、2011 年度・2012 年度は 7 大学、2013 年度は 6 大学、2014 年度は 7 大学と低迷したが、2015 年度は 9 大学と若干増加している。「受入」は、2011 年度は 9 大学、2012 年度は 11 大学、2013 年度は 10 大学、2014 年度は 8 大学、2015 年度は 10 大学である。

他大学科目の受講者数は、2011 年度 145 件（116 名）、2012 年度 122 件（95 名）、2013 年度 147 名（102 名）、2014 年度 114 名（78 名）、2015 年度 126 件（87 名）と推移している。

【別紙（5） 各大学の送出件数・受入件数（2011 年度～2015 年度） 参照】

(4) 成績取得状況

2015 年度の成績取得状況は、受講者数 126 件のうち合格が 75 件（59.5%）という状況で、昨年度の合格率 60%（114 件のうち 68 件合格）とほぼ変化がなかった。

また、本年度は不合格者 51 件のうち、受講放棄・試験未受験と思われるもの（得点が「0」または成績評価が「評価不可」、「評価なし」、「出席日数不足」等）が 41 件（80%）あり、昨年度の不合格者 46 件のうち、受講放棄・試験未受験と思われるもの 39 件（84.7%）と、ほぼ同じような状況が続いている。

なお、学期ごとの成績取得状況は、前期（春学期）科目 74 件のうち、合格が 48 件（65%）で、後期（秋学期）科目 52 件のうち、合格が 27 件（49%）である。

以上

別紙

(1) 2015 年度 各大学提供科目一覧

科目提供大学	科目番号	科目名	担当者 (フルネーム)	単位	回生	単位互換定員	開講期間	曜日	時限
滋賀大学	1	欧米の文化	江崎 麻里	2	1以上	10名程度	春学期集中		
	2	自然科学への招待	古橋 潔	2	1以上	10名程度	春学期	水	1
	3	健康の科学	大平 雅子	2	1以上	10名程度	春学期	火	1
	4	歴史からの問い	坂野 鉄也	2	1以上	10名程度	春学期	火	4
	5	音楽の世界	谷田 博幸	2	1以上	10名程度	秋学期	月	4
	6	教育と社会	児玉 奈々	2	1以上	10名程度	秋学期	水	3
	7	言語と文化	野瀬 昌彦	2	1以上	10名程度	秋学期	金	3
	8	経済学からの問い	水谷 剛	2	1以上	10名程度	秋学期	火	4
	9	現代社会と法	坂田 雅夫	2	1以上	10名程度	秋学期	金	1
	10	滋賀大学で環境を学ぶ	田中 勝也・梅澤直樹・宮本 結佳・市川 智史	2	1以上	10名程度	秋学期	金	4
	11	彦根・湖東学	彦根市長他	2	1以上	10名程度	秋学期集中		
滋賀医科大学	12	医学概論Ⅰ	室寺 義仁	2		15	前期	木	2
	13	医学概論Ⅱ	室寺 義仁	2		15	後期	木	2
	14	臨床心理学	小島 隆次	2		不問	前期	火	4
	15	臨床コミュニケーション学	瀧川 薫	2		30	前期	金	3
	16	地域論	兼重 努	2		不問	後期	木	4
	17	睡眠学概論	宮崎 総一郎	2		10	前期	金	1
滋賀県立大学	18	地域産業・企業から学ぶ社長講義	菊地 憲次	2	1以上	10名程度	前期(4/13～7/27)	月	4
	19	近江の歴史と文化	京楽 真帆子	2	1以上	10名程度	後期(10/5～2/1)	月	4
	20	近江の美	印南 比呂志	2	1以上	10名程度	前期(4/13～7/27)	月	4
	21	びわこ環境行政論	井手 慎司	2	1以上	10名程度	後期(10/5～2/1)	月	4
滋賀短期大学	22	調理学	中平 真由巳	2	1以上	若干名	前期	金	1
	23	カラーコーディネート論	戸田 賀志子	2	1以上	若干名	前期	月	3
	24	和服構成実習	戸田 賀志子	1	1以上	若干名	前期	月	1
	25	生活工芸演習	戸田 賀志子	1	1以上	若干名	後期	金	2
	26	社会福祉	松木 宏史	2	1以上	若干名	前期	月 水	1 4
	27	オフィス総論	清水 たま子	2	1以上	若干名	前期	火	4
	28	秘書実務Ⅰ	清水 たま子	1	1以上	若干名	前期	金	1
	29	秘書実務Ⅱ	清水 たま子	1	1以上	若干名	後期	金	4
滋賀文教短期大学	30	書道Ⅰ	猪飼和喜夫	2	1以上	若干名	春学期	火	3
	31	書道Ⅱ	猪飼和喜夫	2	1以上	若干名	秋学期	火	3
	32	近代の文学	戸塚麻子	2	1以上	若干名	春学期	木	1
成安造形大学	33	近江学A	木村 至宏	2	1以上	10名程度	前期集中		
	34	琵琶湖の民俗史	木村 至宏	2	1以上	10名程度	後期集中		
	35	西洋美術史A	千速 敏男	2	2以上	10名程度	前期	火	1
	36	西洋美術史B	千速 敏男	2	2以上	10名程度	後期	火	1
	37	デザイン史概説A	島先 京一	2	1以上	10名程度	前期	火	2
	38	デザイン史概説B	島先 京一	2	1以上	10名程度	後期	火	2
	39	東洋・日本美術史概説A	小嵯 普通	2	1以上	10名程度	前期	水	1
	40	東洋・日本美術史概説B	小嵯 普通	2	1以上	10名程度	後期	水	1
聖泉大学	41	滋賀論	森雄 二郎	2	1以上	若干名	前期集中	6/13、6/20、6/27	
	42	心理学概論	新美秀和	2	1以上	若干名	前期	月	1
	43	現代人と健康	炭谷将史	2	1以上	若干名	後期	水	3
長浜バイオ大学	44	生物学基礎	岩本 昌子	2	1以上	5名以内	前期	月	2
	45	エッセンシャル生物学Ⅰ	蔡 晃植	2	1以上	5名以内	前期	月	3
	46	基礎微生物学	大島 淳	2	2以上	5名以内	前期	月	2
	47	遺伝子工学	大島 淳	2	2以上	5名以内	後期	月	1

科目提供大学	科目番号	科目名	担当者 (フルネーム)	単位	回生	単位互換定員	開講期間	曜日	時限
びわこ学院大学	48	子どもの心理	那須 光章	2	1以上	若干名	後期	火	3
	49	子ども学総論	鈴木 敦史 鳥野 猛 千原 孝司 ※3名で担当	2	1以上	若干名	前期	火	4
	50	滋賀の環境	佐々木 和之	2	1以上	若干名	後期	火	1
	51	特別支援教育論(初等)	藤井 茂樹	2	1以上	若干名	後期	月	1
	52	スポーツバイオメカニクス	福岡 純史	2	2以上	若干名	後期	金	1
	53	メンタルトレーニング論	竹内 早耶香	2	2以上	若干名	前期	水	3
	54	ビジネスコミュニケーション(短大部科目)	牧田 衛活	2	1以上	若干名	後期	金	2
	55	日本語表現Ⅰ(短大部科目)	神田 卓朗	2	1以上	若干名	前期	月	4
	56	日本語表現Ⅱ(短大部科目)	神田 卓朗	2	1以上	若干名	後期	月	3
	57	人間関係とコミュニケーション演習A(短大部科目)	原田 直子	1	1以上	若干名	後期	火	3
	58	人間関係とコミュニケーション演習B(短大部科目)	前田 真里	1	1以上	若干名	後期	火	3
	59	生活と福祉(短大部科目)	片山 弘紀	2	1以上	若干名	後期	金	3
	60	レクリエーション論(短大部科目)	山ノ井 勉	2	1以上	若干名	後期	月	3
びわこ成蹊スポーツ大学	61	衛生・公衆衛生学	金森 雅夫	2	1以上	若干名	前期	火	1
	62	スポーツバイオメカニクス	高橋 佳三	2	1以上	若干名	後期	火	2
龍谷大学	63	里山学	宮浦 富保 他	2		10名	前期	月	3
	64	環境と人間A	笠 文彦	2	2以上	20名	前期	月	4
	65	地域関係論	三谷 はるよ	2	2以上	不問	前期	月	3
	66	ジャーナリズム論Ⅰ	李 相哲	2	2以上	不問	前期	火	2
	67	まちおこし論	笠井 賢紀	2	2以上	不問	前期	火	2
	68	生活の中の数学	國府 宏枝 大西 俊弘	2		15名	前期	水	3
	69	人間の心理と発達	金子 龍太郎	2	2以上	不問	前期	木	4
	70	びわ湖・滋賀学	松田 征也 他	2	2以上	不問	後期	水	1
立命館大学	71	ODA・国際援助論 E	向井 一朗	2	3以上	10名程度	夏期集中		
	72	科学と技術の歴史 TB	雀部 晶	2		10名程度	後期	火	3
	73	情報技術と社会 TA	服部 文夫	2		10名程度	前期	水	3
	74	科学・技術と社会 C	中村 真悟	2		10名程度	後期	月	4
	75	生命科学と倫理 M	花崎 知則	2		10名程度	前期	月	5
	76	薬学概論 Y	土屋 友房	2		10名程度	前期	火	1
	77	スポーツ栄養学 V	海老 久美子	2	2以上	10名程度	前期	木	3

(2) 提供科目数・受講科目数・受講率(2011年度～2015年度)

科目提供大学		滋賀大学	滋賀医科大学	滋賀県立大学	滋賀短期大学	短期大学文部科学省	大成造大	聖泉大	大浜バイ	大びわこ学院	スビわこ成蹊	龍谷大	大立命館	全大学計
2011年度	提供科目数	8	6	2	11	3	4	2	4	7	1	8	12	68
	受講科目数	7	3	2	3	1	0	1	0	4	0	6	5	32
	受講率	88%	50%	100%	27%	33%	0%	50%	0%	57%	0%	75%	42%	47%
2012年度	提供科目数	7	6	2	10	3	4	1	4	7	3	8	9	64
	受講科目数	4	4	2	1	2	1	1	1	5	0	6	2	29
	受講率	57%	67%	100%	10%	67%	25%	100%	25%	71%	0%	75%	22%	45%
2013年度	提供科目数	11	6	4	8	2	4	1	4	4	2	9	7	62
	受講科目数	7	5	2	4	2	2	1	0	1	0	8	2	34
	受講率	64%	83%	50%	50%	100%	50%	100%	0%	25%	0%	89%	29%	55%
2014年度	提供科目数	11	6	3	8	2	6	3	4	4	2	8	8	65
	受講科目数	8	3	2	3	0	3	2	0	0	0	7	3	31
	受講率	73%	50%	67%	38%	0%	50%	67%	0%	0%	0%	88%	38%	48%
2015年度	提供科目数	11	6	4	8	3	8	3	4	13	2	8	7	77
	受講科目数	10	6	2	4	1	3	2	0	3	0	7	2	40
	受講率	91%	100%	50%	50%	33%	38%	67%	0%	23%	0%	88%	29%	52%

※ 自大学への出願は除く

(3) 2015 年度 授業科目別受講者数一覧

2015年度受講科目一覧 (提供科目数: 77科目 受講科目数: 40科目)				
科目番号	科目提供大学名	科目名	受講者数	集中講義
01	滋賀大学	欧米の文化	6	○
02	滋賀大学	自然科学への招待	1	
03	滋賀大学	健康の科学	4	
05	滋賀大学	音楽の世界	1	
06	滋賀大学	教育と社会	2	
07	滋賀大学	言語と文化	4	
08	滋賀大学	経済学からの問い	2	
09	滋賀大学	現代社会と法	2	
10	滋賀大学	滋賀大学で環境を学ぶ	5	
11	滋賀大学	彦根・湖東学	4	○
12	滋賀医科大学	医学概論Ⅰ	2	
13	滋賀医科大学	医学概論Ⅱ	2	
14	滋賀医科大学	臨床心理学	1	
15	滋賀医科大学	臨床コミュニケーション学	2	
16	滋賀医科大学	地域論	6	
17	滋賀医科大学	睡眠学概論	5	
19	滋賀県立大学	近江の歴史と文化	2	
21	滋賀県立大学	びわこ環境行政論	1	
22	滋賀短期大学	調理学	5	
25	滋賀短期大学	生活工芸演習	2	
28	滋賀短期大学	秘書実務Ⅰ	1	
29	滋賀短期大学	秘書実務Ⅱ	1	
32	滋賀文教短期大学	近代の文学	1	
34	成安造形大学	琵琶湖の民俗史	6	○
35	成安造形大学	西洋美術史A	2	
37	成安造形大学	デザイン史概説A	1	
41	聖泉大学	滋賀論	18	○
42	聖泉大学	心理学概論	1	
52	びわこ学院大学	スポーツバイオメカニクス	1	
57	びわこ学院大学	人間関係とコミュニケーション演習A	2	
59	びわこ学院大学	生活と福祉	1	
63	龍谷大学	里山学	1	
65	龍谷大学	地域関係論	2	
66	龍谷大学	ジャーナリズム論Ⅰ	1	
67	龍谷大学	まちおこし論	1	
68	龍谷大学	生活の中の数学	2	
69	龍谷大学	人間の心理と発達	12	
70	龍谷大学	びわ湖・滋賀学	8	
71	立命館大学	ODA・国際援助論 E	4	○
77	立命館大学	スポーツ栄養学V	1	
	総計		126	5科目

(4) 2015 年度 各大学受講者数

2015年度		学生所属大学												
		滋賀大学	滋賀医科大学	滋賀県立大学	滋賀短期大学	短期賀大文学教	成安造形大学	聖泉大学	長浜バイオ大学	びわこ学院大学	びわこ成蹊スポーツ大学	龍谷大学	立命館大学	総計
科目提供大学	滋賀大学			2			2	5	3		1		18	31
	滋賀医科大学	2							1		1		14	18
	滋賀県立大学	2						1						3
	滋賀短期大学										1		8	9
	滋賀文教短期大学								1					1
	成安造形大学	2		1									6	9
	聖泉大学								1			1	17	19
	長浜バイオ大学													0
	びわこ学院大学							2					2	4
	びわこ成蹊スポーツ大学													0
	龍谷大学			1									26	27
	立命館大学		1					3			1			5
	総計	6	1	4	0	0	2	11	6	0	4	1	91	126

(5) 各大学の送出件数・受入件数 (2011 年度～2015 年度)

	送出件数					総計	受入件数					総計
	2011	2012	2013	2014	2015		2011	2012	2013	2014	2015	
滋賀大学	11	15	8	9	6	49	41	29	36	29	31	166
滋賀医科大学	0	2	2	3	1	8	13	8	20	15	18	74
滋賀県立大学	3	4	0	0	4	11	2	2	6	2	3	15
滋賀短期大学	1	0	0	0	0	1	4	2	9	6	9	30
滋賀文教短期大学	0	0	0	0	0	0	2	3	3	0	1	9
成安造形大学	0	0	0	1	2	3	0	3	2	17	9	31
聖泉大学	0	0	11	11	11	33	54	39	20	12	19	144
長浜バイオ大学	9	12	12	0	6	39	0	1	0	0	0	1
びわこ学院大学短期大学部	2	1	1	1	0	5	4	6	2	0	4	16
びわこ成蹊スポーツ大学	0	0	0	1	4	5	0	0	0	0	0	0
龍谷大学	4	2	0	0	1	7	14	23	46	26	27	136
立命館大学	115	86	113	88	91	493	11	6	3	7	5	32
総計	145	122	147	114	126	654	145	122	147	114	126	654

以上

5. 平成27年度 広報事業報告

平成28年3月31日

1. 担当

事務局

2. ホームページの管理・運営について

(1) 情報提供

コンソーシアムのホームページを通して、各事業委員会の取組状況、各大学で開催されるオープンキャンパスや各種イベント等の情報提供を行う「お知らせ」の記事を、年度内において58件ホームページ上で掲載した。

(2) 情報内容更新

- ① 各事業委員会のページについて、平成27年度事業内容に更新した。
- ② 平成27年6月4日および平成28年3月29日開催の総会決議を受けて、組織図、役員一覧、役員会議事録、財務状況を更新した。
- ③ 平成26年度中の幹事会での提案を受けて、各大学の学術情報リポジトリへのリンク集を作成した。11大学より承諾を受けて、11月18日に公開した。
- ③ 大学紹介ページを一部更新した。

なお、年度内のアクセスは41,012件（昨年度は28,353件）であった。

3. 広報資料の配布

平成26年度中に作成した広報リーフレットを対外的な情報発信資料として配布した。

4. 事業委員会と連携した広報活動について

大学地域連携事業（大学地域課題解決支援事業、環びわ湖大学地域交流フェスタ）、学生支援事業（滋賀県魅力発信ポスター企画）、就職支援事業（合同企業説明会、企業訪問会等）、単位互換事業（互換科目の受講案内）について、各事業委員会と連携してホームページ掲載をはじめとした広報を行った。

（以上）

6. 平成27年度 本法人全体に関わる事業報告

平成28年3月31日

1. 滋賀県からの受託事業

大学連携政策研究事業（「人口減少を見据えた大学と地域との連携のあり方調査事業」）

1. 事業概要

日本全体が本格的な人口減少に転じる中で、滋賀県も2014年から人口減少に転じた。滋賀県には、13の大学が立地し約34,000人の学生が在学し、人口当たりの学生比率は、京都府、東京都、大阪府などについて全国第7位という強みがある。これを生かし、今後の人口減少を見据えて持続可能で豊かな滋賀をつくるためには、県内大学と地域との連携を強化し大学の専門的知見と学生の力を有効に活用する政策の構築が急務である。

このため、県内の大学関係者を中心に研究会を組織し、滋賀県とも緊密に協議しながら、人口減少社会における大学と地域の連携のあり方に関する提言を取りまとめた。

また、12大学の学生が参加したワークショップおよび外国人留学生を対象としたアンケート調査を実施し、学生の滋賀に対する意識と滋賀への定着に向けた提言を取りまとめた。

さらに、県内大学・短期大学卒業者の業種別県内就職状況などを調査するとともに、県内12大学・短期大学の自治体や地域社会との連携・協働の現状と課題を聞き取り調査した。また、地域連携で特色ある成果をあげている全国10大学の事例を調査した。

2. 委託期間 2015年4月1日（金）から2015年12月25日まで

3. 受託調査内容

1. 人口減少社会における大学と地域の連携のあり方に関する提言の作成
2. 学生（留学生を含む）によるワークショップ開催等による意見の集約
3. 基礎データの収集・集計・分析
 - （ア）平成24～26年度分の追跡調査、県内大学卒業時の就職状況の推移 等
 - （イ）県内各大学の地域連携における現状と課題、今後の展開
 - （ウ）他府県の大学と地域との効果的な連携事例

4. 実施体制

研究代表者：仁連 孝昭氏（滋賀県立大学名誉教授・前副学長）

共同研究者：肥塚 浩 氏（立命館大学経営学部教授）

共同研究者：辻田 素子氏（龍谷大学経済学部教授）

共同研究者：加藤 賢治氏（成安造形大学社会貢献部門主査）

共同研究者：堀部 栄次氏（環びわ湖大学・地域コンソーシアム事務局長）

5、調査成果

(1) 人口減少社会における大学と地域の連携のあり方に関する提言

提言では、「滋賀県経済の活性化と大学の役割」にふれ、若者の地域定着が人口安定の重要要因であるにもかかわらず、若者の就職志望と滋賀の産業構造がミスマッチを生じていることから、抜本的な対応方策を提言した。次に「地域コミュニティの活性化と大学の役割」では、地域コミュニティの強靱化のために多くの大学が連携して地域に関与する仕組みとしてのインターユニバーシティ・キャンパス構想を提案した。また、「学生の力を生かした地域づくり、滋賀の魅力の発掘・発信」では、地域、企業、行政の課題解決に学生を巻き込んで、学生の関心を高め滋賀に愛着をもってもらうためのアイデアと情報発信を行う学生グループの育成を提案した。さらに「大学卒業生の滋賀への定着を目指す仕組みづくり」では、中堅中小企業との課題解決型インターンシップの充実、イノベーションマインドを持った若手人材育成プログラムの展開を提案した。

(2) 学生（留学生を含む）によるワークショップ開催等による意見の集約

環びわ湖大学・地域コンソーシアムの12大学の学生達が、①学生の視点を活かした滋賀の魅力発見と県内外への情報発信の提案、②学生が滋賀の幅広い魅力に気づき、帰属意識を高める仕組みづくりの提案、③卒業後も滋賀県にすみつづけてもらうための提案の3つの課題を、7月の全体ワークショップの後、湖西、湖南、湖東の3チームに分かれて検討した。そして、12月の環びわ湖大学地域交流フェスタで発表した。留学生の意見は、各大学等の協力を得てアンケート調査を行い、事務局で集約した。学生の提案、留学生の意見は、研究会を通して提言に反映した。

(3) 基礎データの収集・集計・分析

(ア) 平成24～26年度分の追跡調査、県内大学卒業時の就職状況の推移 等

これまで収集できていなかった卒業者の業種別県内就職状況を各大学等の協力を得て把握し、学生の県内就職率が16～17%であること、就職業種が公的分野に大きく偏っており、学生の志望とのミスマッチが大きいことなどが判明した。

(イ) 県内各大学の地域連携における現状と課題、今後の展開

大学・短期大学の地域との連携事業の現状と課題、今後の展開の方向性を聞き取り調査した結果、今後とも、活発な活動が期待できる反面、自治体との連携ルール必

要性、地域ニーズに対する個別大学での対応の限界、コミュニティの活性化だけでなく地域経済の活性化が必要などの課題が明らかになった。

(ウ)他府県の大学と地域との効果的な連携事例

全国の大学と地域との連携事例から、顕著な特色がある以下の10事例を調査した。

- ① 高知大学、高知県立大学、高知工科大学と高知県等との地域連携
- ② 大学コンソーシアム石川、金沢大学と石川県、金沢市等との地域連携
- ③ 山梨県立大学と山梨県等との地域連携
- ④ 三重大学、四日市大学と三重県等との地域連携
- ⑤ 岐阜大学、岐阜経済大学と岐阜県等との地域連携
- ⑥ 京都府、大学コンソーシアム京都、京都府北部地域・大学連携機構
- ⑦ 相模原・町田大学コンソーシアムの大学地域連携
- ⑧ 学術・文化・産業ネットワーク多摩の大学地域連携
- ⑨ 松本大学、松本市の地方創生にかかる連携
- ⑩ 高崎経済大学の大学地域連携

長年の経験を積み上げた優れた事例から最新のソーシャルデザイン、フューチャーセンターなどの手法を取り入れた事例まで多様である。

最近の傾向として、広い地域の全体をとらえ、複数自治体と複数大学が統一協議体をつくり、戦略的に地域活性化に取り組みだしていることが認識できた。

2、環びわ湖大学・地域コンソーシアム改革案具体化の推進

1、プロジェクトチームによる「インターユニバーシティ・キャンパス」の推進

- (1) 平成26年度にワーキングチームにより策定された「環びわ湖大学・地域コンソーシアム改革案」では、第2ステージ(2010年-2014年)の課題として、コンソーシアムの基本方向が大学連携だけでなく、大学、自治体、産業界、地域社会との連携を掲げているにもかかわらず、大学連携のレベルにとどまり、大学と地域とのWin-Winの関係を築けていないと評価した。

そのうえで、第3ステージ(2015年-2019年)では、人口減少・少子高齢化社会の到来に伴って、大学の経営と地域の経営がともに厳しさを増すことから、今後の大学と地域の連携をWin-Winで推進するため、多様な社会人と大学の枠を超えた学生が集う地域キャンパスを自治体と県内大学が共同して設置する「インターユニバーシティ・キャンパス」が提案された。

- (2) 平成27年3月(平成26年度末)の総会では、改革案を承認し、改革を具体化する

ためプロジェクトチームを設置して、具体化した内容を平成28年度以降の事業計画に反映させることが決定された。

- (3) 改革具体化プロジェクトチーム(20名)では、平成27年6月から11月まで4回のプロジェクト会議を開催し、具体化を推進した。

2、検討結果

- (1) 大学の枠を超えて学生が参加する科目「おうみ学生未来塾」を2016年度、草津市、東近江市、長浜市の3か所で試行する。単位付与する科目として、長浜バイオ大学、滋賀県立大学、立命館大学が科目を提供し、単位互換科目として各大学の学生が受講する。
- (2) 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)との連携により課題解決型インターンシップの促進を図る。
- (3) 県・市町との連携強化
地方創生にかかるプロジェクトの受託など、自治体との連携強化により資金を獲得する。
- (4) 組織体制
- 1、地域連携事業委員会、産業連携事業委員会を設け、教員および職員が参画し、各事業を関係づける。
 - 2、事務局に地域連携、産業連携、総務の3部門を設け、1名を大学から派遣(任期2年)する。

3、今後の課題

- (1) 「おうみ学生未来塾」や「課題解決型インターンシップ」については具体化を図ったが、それらの前提となる地域における課題解決・地域企業の課題解決のプロジェクト形成のしくみづくりには着手できなかった。
- (2) 「インターユニバーシティ・キャンパス」の内容説明・共通理解が不十分である。
- (3) 事業実施のための財源の確保、事務局体制の強化の見通しが立っていない。
- (4) 奨学金制度、学生起業支援などの具体化が着手できていない。
- (5) このため、平成28年度にインターユニバーシティ・キャンパス推進部会を設置し、地域の課題を地域と大学が共有し課題解決プロジェクトを形成する仕組みをつくることを目的として、関係者の理解の促進をはかり、改革の具体化を推進する。

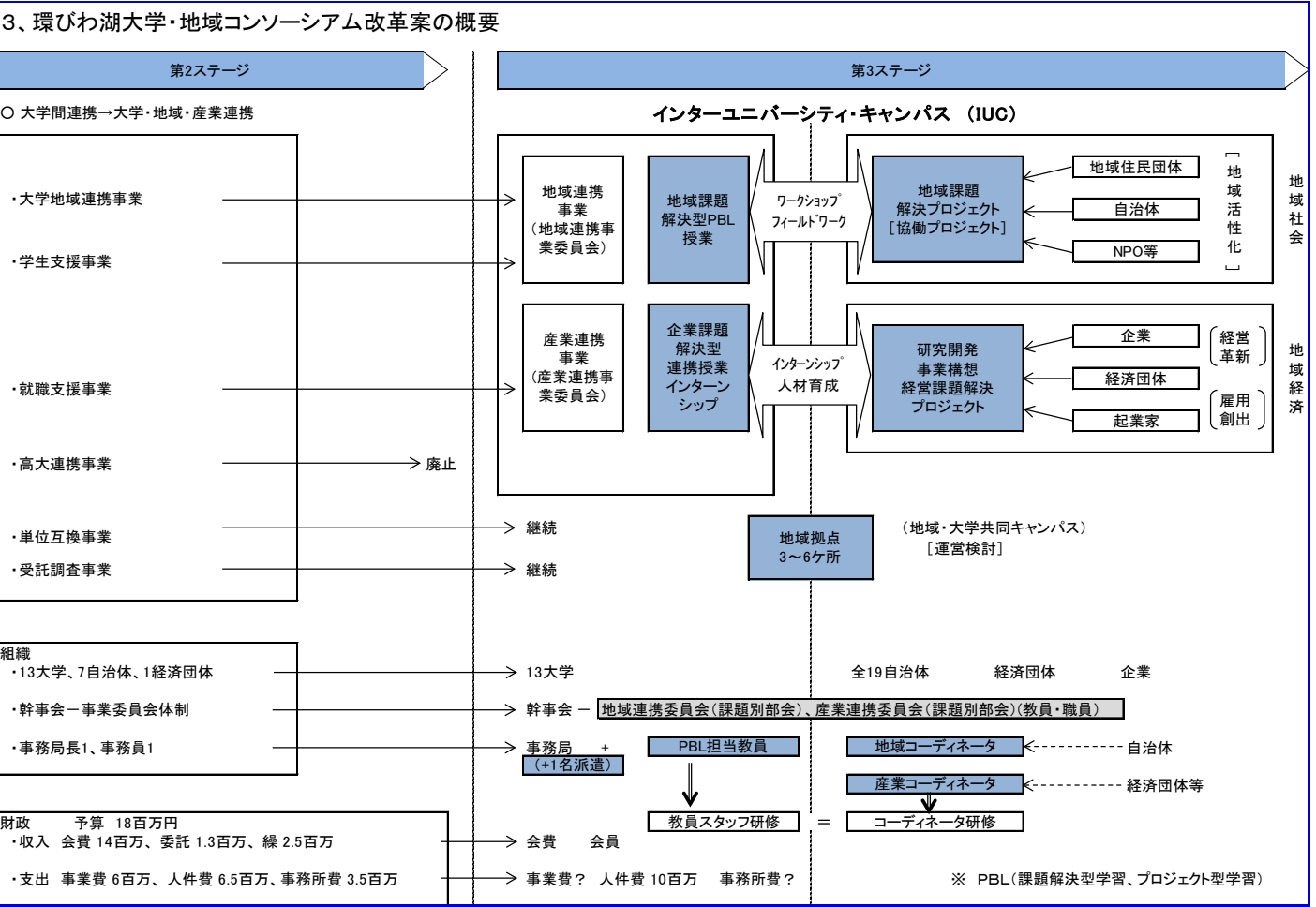
表1 環びわ湖大学・地域コンソーシアム改革(第3ステージ)具体化プロジェクト報告参照

表1 環びわ湖大学・地域コンソーシアム改革(第3ステージ)具体化プロジェクト報告 2016/3/29

※目的:「環びわ湖大学・地域コンソーシアム改革案」(2015.3総会承認)を具体化し、2016年度以降に反映させる

1、改革の背景	
人口減少・ 少子高齢化 社会の到来	18歳人口の減少(2018年問題)⇒初めて大学進学人数の絶対数減少⇒地方大学の存立困難 地方から大都市圏(特に東京圏)への若年人口流出⇒さらなる人口減少・少子高齢化⇒地域の疲弊、活力低下

2、改革で達成すべき理想像	
①魅力ある教育づくり＝社会人基礎力＋起業力を備えた学生づくり ②魅力ある地域社会・地域企業づくり＝県内外学卒者、若い世代を惹きつける企業・職場づくり、起業促進、認知度向上	
目標①	18歳人口急減期(2018-2030)にも志望者を確保できる大学・短大づくり
目標②	県内大学等卒業生の県内就職率向上 2014年 10.1% ⇒ 2019年度 12.1% (滋賀県総合戦略)
目標③	20-24歳層社会減 2014年1300人 ⇒ 2040年 0人(滋賀県総合戦略)



4、具体化の課題と検討経過	
1、課題 ①地域課題解決型PBL授業の具体化 ②企業課題解決型インターンシップの具体化 ③地域拠点の具体化 ④担当教員、コーディネータの具体化 ⑤事務局体制と必要資金の具体化 ⑥課題解決プロジェクト形成のしくみの具体化	2、検討経過 6/26(金) 第1回 PBL授業の実施方法、IUC実施工程について 7/27(月) 第2回 各大学で提供するPBL授業、地域活動拠点調査 8/24(月) 第3回 改革案に基づく事業提案、COC+との調整 9/18(金) 第3回幹事会に報告、審議 11/24(火) 第4回 おうみ学生未来塾の試行、事業委員会の再編、COC+によるインターンシップ実施との調整

5、環びわ湖大学・地域コンソーシアム改革案にもとづき実施する事業(案)

環びわコンソの改革案内容	COC+6大学	コンソーシアム	自治体/企業
地域課題解決型プロジェクト学習 (地域連携型)	「地域共生論」(1年前・6大共通科目) 「地域コミュニケーション論」 (1年夏集中・6大合同開設科目) 地域志向専門科目の連携・参加 地域デザインA、B、C、D(再編) 経営学序論、地域中小企業講座 地域社会と女性の活躍推進(新設)	「地域導入科目」の各校開講促進 (スクーリング、エキスカージン) 「おうみ学生未来塾」 2・3年生以上 (初年度 3か所 夏季中心) (以後、プロジェクトと連動させる)	地域活動のコーディネート 「おうみ未来塾」等との連携 地域課題提案とプロジェクト実践 CDが地域と大学との調整 商工会議所、商工会、観光協会 まちづくり会社などからの提案募集
産業課題解決型プロジェクト学習 (産業連携型)	課題解決型インターンシップ 1か月程度 企業課題の解決を目標とする	課題解決型インターンシップ 社風発見型インターンシップ 課題解決型ビジネス連携事業等	企業連携型奨学金制度 ○滋賀未来奨学金 ○未来奨学生プロジェクト (奨学生が課題に挑戦)
課題解決型プロジェクト形成			
地域課題に取り組むゼミを支援		地域課題対応ゼミナール支援事業	
学生の自主的地域貢献を支援	「近江楽座」の5大学への展開	学生地域貢献プロジェクト支援事業	
自治体政策課題プロジェクトへ参画		政策課題プロジェクトの受託	Ex.能登振興プロジェクト(石川)
学生リーダー・起業家の育成	地域中小企業講座(展開)	おうみ学生起業塾(共同実施)	県産業支援プラザ等と連携
人生設計・キャリア設計の支援	地域社会と女性活躍推進(展開)	ライフデザイン・キャリア教育研修	滋賀県等と連携
高校生・社会人の入学促進		SNS大学魅力発信プロジェクト	企業等との連携

実施体制			
【現状】 5事業委員会 事務局長 1名、事務員1名	COC+推進コーディネーター 教育担当 1名 就職担当 1名 エリア・コーディネータ 2名	地域連携・産業連携の2委員会 事務局 事務局長1、事務補助2 コーディネーター2	

資金・財源			
【H27】 18百万円 単位:百万円		【H31】 31百万円 単位:百万円	
収入 会費 14	支出 人件費 6.6	収入 会費 14	支出 人件費 17
委託料 1.3	事業費 6.2	委託・補助 14	事業費 10
繰越 2.7	事務所費 3.4	繰越 3	事務所費 4

6、実行計画	
①「おうみ学生未来塾」を2016年度、3か所で試行する。 1、プログラムづくりを長浜バイオ、滋賀県立、立命館を中心に、教員を含めて行う。 2、各大学で、2016年度単位互換に組み込むとともに、地域導入科目を設定する。	
②COC+との連携で課題解決型インターンシップの促進を図る 1、COC+が採択されたことから、課題解決型インターンシップ等はCOC+にゆだねる。	
③県・市町との連携強化 ・地方創生にかかるプロジェクトの受託など、自治体との連携強化により資金を獲得する	
④組織体制 1、地域連携事業委員会、産業連携事業委員会を設け、教員および職員を指名する 2、事務局に地域連携、産業連携、総務の3部門を設け、次年度、1名を大学から派遣(任期2年) 事務局長は、コーディネータ兼務とする。次々年度以降、さらに1名を構成団体から派遣する	

7、残された課題	
1、事業実施のための財源の確保、実施体制確保の見通しが立っていない。 2、インターユニバーシティ・キャンパスの前提となる自治体、地域企業主体の課題解決プロジェクト形成のしくみの具体化が、着手できていない。 3、奨学金制度、学生起業支援の検討などが着手できていない。	